

コウノトリ保全セミナー

あなたの街にも コウノトリが!?

— 見えてきたコウノトリ保全事業の課題と展望 —

会場：東京都美術館 講堂

東京都台東区上野公園 8-36



2018年11月25日(日)

13時～16時30分 (受付開始 12時30分)

定員…200名 / 対象…中学生以上

参加費…無料

【主催】コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル (IPPM-OWS)

【共催】公益財団法人東京動物園協会、兵庫県立コウノトリの郷公園、

兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科

【後援】公益社団法人日本動物園水族館協会

*このセミナーの開催経費の一部は、公益信託サントリー世界愛鳥基金の助成を受けています。



「コウノトリ保全事業の近年の成果」

コウノトリの再導入が2005年に行われて以降、野外個体数は直線的に増加しており、特に近年は、但馬地域外での個体数増加が顕著である。当初但馬地域内に限定された繁殖地も、現在は地域外でも確認されるに到っており、本種の繁殖年齢に鑑みると、今後も繁殖地の拡大が予想される。一方で、コウノトリは豊かな餌動物を育む水域の存在が不可欠であり、全国の飛来地では水域の生態系を復元するための様々な施策が行われている。本発表では全国におけるコウノトリの個体数および繁殖地拡大の経過と、各地で行われている水辺域整備事業の最新事例を紹介する。

佐川志朗 - 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科教授，兵庫県立コウノトリの郷公園エコ研究部，IPPM-OWS 域内保全作業部会長



「徳島県鳴門市での繁殖について」

2015年に飛来した2羽がカップルとなり造巢。2016年には産卵したものの抱卵放棄。3年目で繁殖に成功し2017年、2018年で計5羽が巣立った。2018年11月現在の徳島県内の個体数は20羽を超えている。この間、兵庫県立コウノトリの郷公園とIPPM-OWSの指導を得ながら「産学官民」の体制で定着と野外繁殖の成功に向け取り組んだ結果、予想以上の成果を上げることができた。一方で、安定的な生息地とするために、営巣場所や予算の確保、取組体制の強化等々、課題も多い。

柴折史昭 - コウノトリ定着推進連絡協議会（徳島県）



「島根県雲南市での繁殖について」

雲南市内では、昨年からコウノトリが営巣している。営巣地として選んだ場所は集落内に建っている電柱頂部。巢のある電柱と民家は、直線距離で10m程度しか離れていない。当初、民家との距離が近すぎるため「日常生活の音を嫌い、別の場所に巣を作り直すのでは」と考えていたが、今のところ順調に「人とコウノトリが共生」している。今回の発表では、2年間のコウノトリの育雛記録とともに、本市の取組みについて報告する。

高橋誠二 - 雲南市教育委員会 文化財課



「京都府京丹後市での繁殖について」

京都府の北端に位置する京丹後市は、野生復帰事業の拠点施設がある兵庫県豊岡市に隣接しています。2011年頃からコウノトリの飛来が確認され始め、2013年には野外繁殖でヒナが誕生しました。近年では市内全域で年間を通じて複数羽のコウノトリが生息し、繁殖行動は市内3カ所で確認されています。野外繁殖を行う個体等の増加に伴い、保護増殖活動に係る事務量の増加や人材不足、近親ペアの発生など、市として対応に苦慮する事例が増えてきており、事務の効率化などが課題となっています。

小北景子 - 京丹後市教育委員会 文化財保護課



「野田市のコウノトリ放鳥事業について」

野田市では2015年からコウノトリの放鳥事業に取り組んできた。現在、野田市が放鳥したコウノトリ7羽が日本の野外で活動しているが、これまで関東地方における飛来・滞在の事例は稀有であったが2018年に入り、関東地方でも野田市の放鳥個体以外も含めた野外コウノトリの目撃例が増加傾向となり、これを裏付けるかのように野田市の放鳥個体が関東地方に集結する動きをみせたところである。これまでの取組の一つの成果があらわれたものと考え、今後更に関東地方において野外コウノトリの飛来機会が増加し、滞在期間も長期化する例を確認することができれば、と期待している。

岡 重之 - 野田市 みどりと水のまちづくり課



「関東でひろがる コウノトリの輪～埼玉県鴻巣市・自治体フォーラムの取組～」

埼玉県鴻巣市では、市民になじみの深いコウノトリをシンボルとして、「人にも生きものにもやさしい」まちづくりに取り組んでいる。コウノトリの里づくりが目指すものは、豊かな自然環境づくりのみならず、様々な分野における地域活性化につながるものと考えている。また、このような地域づくりは関東にひろがっており、「コウノトリ・トキの舞う関東自治体フォーラム」では、自然と共存するまちづくりに取り組む自治体が連携し、取組を進めている。

岡安優子 - 鴻巣市 環境課



「域外保全の重要性～飼育施設での取り組みと課題～」

飼育下では現在国内 17 施設で約 200 羽のコウノトリを飼育し、放鳥されるコウノトリの元となっている。近年では野外個体群の遺伝的多様性に考慮し、個体群管理ソフトを用いた解析結果を元に離れた施設間で卵を輸送し、ふ化した個体を放鳥する取り組みが行われている。飼育・繁殖技術、卵の移動の技術などが確立し、安定した飼育下個体群が維持される一方、飼育スペース不足や技術の継承など新たな課題も見えてきた。

中島亜美 - 多摩動物公園, (公社) 日本動物園水族館協会生物多様性委員会ニホンコウノトリ計画管理者, IPPM-OWS 域外保全作業部会副部長



「野外コウノトリの救護及び死亡の要因」

コウノトリの野外での個体数が増えるにしたがって、様々な新しい課題も生じている。そのひとつが、野外でのケガの増加である。2005 年の試験放鳥開始以降、これまでに 103 羽が救護されたり野外で死亡したりしているが、その約 40%が、何らかの人間活動に関連したものである。人とコウノトリをはじめとした野生生物が共生できる地域社会づくりをさらに進めるためには、このような事故を未然に防ぐための対策も今後は重要になっていくだろう。

松本令以 - 兵庫県立コウノトリの郷公園, IPPM-OWS 事務局長



「これまでの取り組みの総括と今後の展望」

2015 年に策定した「東京宣言 2015」に基づいて様々な活動を行ってきた結果、野外コウノトリの個体数は 100 を超え、兵庫県以外にも 3 か所の繁殖地が形成された。一方、コウノトリの保全に関する新たな問題も見えてきており、その克服に向けて引き続き取り組む必要がある。繁殖地は今後さらに拡大すると予想されるので、各地でコウノトリと共生できる持続可能な地域社会づくりが行われることを期待する。

江崎保男 - 兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科長・教授, 兵庫県立コウノトリの郷公園統括研究部長, IPPM-OWS 副代表



このセミナーの開催経費の一部は、
公益信託サントリー世界愛鳥基金の助成を受けています。